

防犯活動 防犯パトロール隊



【鳴海学区】

■世帯数：4,739 世帯

■人 口：10,969 人

■面 積：1.671 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月「犯罪ゼロの日」に学区内（各町内会）で自主的に夜間パトロールを行っている。
- ・ 学区全体の実施方法として、小学校別（分団別）1 分団～7 分団で順番に月 1 回実施。現在は「青色パトロール車」5 台を有効に活用している。

【住民への PR 方法】

区政協力委員（町内会長）が町内自主防犯委員に活動を指示。

【アピールポイント】

ボランティアを自主的に継続することが大切である。

皆さんの理解もあり、現在では、小中学校生の登下校時の見守りも積極的に協力できるようになってきた。子どもの見守り、夜間の防犯パトロールも継続できている。

2 きっかけ、背景

街頭犯罪、特に侵入盗、自転車盗の防止を目標に活動しており、安全・安心を少しでも確保できるよう努力している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、女性団体・女性会、老人クラ
ブ 計約 150 人

(2) 他団体との協力

消防団（団員）

(3) 運営協力

各町内会において、自主防犯の若
手リーダー養成に努力している。

4 実施のスケジュール

H20 年 町内の自主防災会組織役員から
4 月 「防犯」の組織を立ち上げ

H21 年 町内会を分団（集合）し、小学
4 月 校が実施している「分団制」で
実施している（7分団）で月 1
回夜間合同パトロールを実施

H22 年 「青色パトロール車」5台が加
4 月 入し、現在に至る

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加するとともに、住民意識の高まり、住民間の交流の深まりがみられる。活動の担い手も増えている。
- ・侵入盗、自転車盗が減少した。少し成果が現れているのではないかとと思われる。

(2) 苦労した点

- ・参加者の確保、活動の担い手不足、住民の理解を得ることに苦労した。「自分たちの街は自分たちで守る」ことの重要性を理解し、協力してもらうことが大切。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続、担い手の世代交代。
- ・継続的に自主的な協力が必要。無理のない協力の仕方が第一である。



相原学区自主防災会(10の自主防災会)



【相原学区】

■世帯数：2,953 世帯

■人 □：7,781 人

■面積：1.096 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年春に 1 回、相原小学校において防災訓練を実施している。特に、新組長さんの顔合わせと親睦を目的としており、約 300 人の参加がある。
- ・ 避難誘導訓練（避難場所への誘導、集合）、救命処置訓練（AED を使用した心肺蘇生法）、応急手当訓練（搬送訓練、三角布、応急担架）を実施している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

防災会創立以来 23 年間、年 1 回 5 月に開催する訓練が長く続いている。阪神淡路大震災、東日本大震災が気を引き締めるきっかけとなっている。訓練の大切さを痛感している。

2 きっかけ、背景

平成元年 9 月 1 日に消防署の指示で自主防災会を結成。平成 24 年度で創立 23 年になる。災害や火災への備えのほか、住民との情報共有、意識啓発、新組長さんをはじめとする住民間の交流促進にもなっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員 計約 30 人

(2) 他団体との協力

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、子ども会、老人会、学区連絡協議会

(3) 運営協力

自治会、民生委員児童委員、子ども会。町内会の新組長については参加を義務付けている。

4 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、住民間の交流の深まりに役立った。また、参加者および担い手の増加がみられる。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代および活動資金の確保が課題である。



旭出学区自主防災の取り組み 〈手作りの自主防災訓練〉



【旭出学区】

■世帯数：3,627 世帯

■人 □：9,659 人

■面積：1.148 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「自分の身は自分で守る」訓練の実施
安全な部屋に逃げ込み、机の下に入る訓練を実施。
- ・地震の怖さと、家具転倒防止の必要性
手作りの家具転倒防止装置を用いて家具転倒の様子を実演し、地震の怖さと家具の転倒防止の必要性を体感。装置の有無による効果の違いを訴える。
- ・地震災害を想定した実践訓練
本物の消火器で火を消す訓練、「煙道」装置を使って煙を吸わない訓練、「くど・釜」を使った炊き出し、救出救護訓練、救援物資仕分け訓練、応急手当、AED、給水訓練等の実施。
- ・宿泊型避難訓練を実施し、避難設営等を行った。

【住民への PR 方法】

学区で防災訓練の開催案内を作成し、回覧している。

【アピールポイント】

訓練は行政に頼らず、住民の手で全てを実施している。毎年、訓練内容をバージョンアップし、マンネリ化に陥らないようにしている。大地震の発生を予想した、きめ細やかな訓練を実践している。

2 きっかけ、背景

毎年 6 月に防災訓練を実施しているが、年々参加者が減少しているため、住民による「手作りの自主防災訓練」を計画。「自分の身は自分で守る」意識を持つこと、そして「地域で助け合う」ことの重要性を訴え、訓練への参加を呼びかけた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、老人クラブ、スポーツ推進委員、保護司、OBソフトクラブ 計約 60 人

(2) 他団体との協力

区政協力委員会、民生・児童委員会、保健委員会、保護司会、消防団、スポーツ推進委員会、老人クラブ、OBソフトクラブ。

防災ボランティアにも協力を依頼。

4 実施のスケジュール

H24 年 1 月 H23 年に実施した訓練結果の反省、内容の検討

3 月 学区内に防災訓練に対する要望事項等を問いかけ

4 月 前年度の反省に基づき、訓練内容のバージョンアップを検討

5 月 宿泊型避難訓練の参加を呼びかけ

6 月 防災訓練の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・東日本大震災発生後、防災に対する住民の関心が高まっており、家族ぐるみで 500～600 人の参加があった。
- ・家具転倒防止装置を手作りのことで、訓練に対する地域住民の意識が高まった。
- ・宿泊型避難訓練の継続実施に対する要望が多くあった。

(2) 苦労した点

- ・参加者の確保。特に宿泊型避難訓練の参加者の集まりが心配であった。

(3) 今後の課題・展望

- ・準備・運営を行う区政協力委員が多数交代するため、新たな人への説明・指導に時間が必要。
- ・「宿泊型」訓練も継続し、住民に訓練の重要性と必要性を PR していきたい。
- ・高齢者及び一人暮らし高齢者の参加を促進すること。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・訓練のための訓練ではなく、実践的な訓練を行うこと。
- ・訓練内容は、行政に頼らず自分たちで立案計画し、実施すること。



福祉ふれあいまつり(三世代間の交流)



【滝ノ水学区】

■世帯数：2,982 世帯

■人 □：8,492 人

■面 積：1.038 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

滝の水小学校体育館にて、高齢者、成人、子どもと一緒に遊び、交流する「ふれあいまつり」を開催。延べ約 600 人が参加する。

- ① 昔からの遊び：お手玉、おはじき、こま回し等
- ② 作って遊ぼう：折り紙、クラフトヒコーキ等
- ③ チャレンジしよう：輪投げ、ラダーゲッター等
- ④ 福祉体験：点字、手話、高齢者体験、車いす体験等
- ⑤ ホットコーナーでは、つくたてのお餅を味わった。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、学区福祉だよりを小学校全児童へ配布

【アピールポイント】

遊びを通して福祉への関心を育む。地域住民の世代を越えた交流が、次世代の地域住民の育成につながる。

2 きっかけ、背景

平成 2 年 4 月に滝ノ水学区が誕生して以来、住宅地として急速に発展し、人口も増加の一途をたどってきた。学区では、住民の交流と融和を目的として運動会、敬老会、夏祭り等を行っていたが、平成 6 年度からは、老人・成人・子どもの三世代のふれあい交流を図ろうと「福祉ふれあいまつり」を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

福祉推進協議会、区政協力委員会、民生委員児童委員協議会、PTA、子ども会、老人クラブ、学童保育所、福祉推進協議会ボランティアの会員 計 100 人

(2) 他団体との協力

緑区社会福祉協議会、滝ノ水小学校、滝ノ水中学校

(3) 運営協力

毎年度 4 月に福祉推進協議会ボランティアの募集をしている。

4 実施のスケジュール

H23 年 9 月 実施プラン作成、福祉推進協議会による検討会議

11 月 実施プランに沿って細部検討

12 月 プランに基づき準備、協力団体との調整、タイムスケジュールの作成

H24 年 1 月 連絡協議会を通じて広報（チラシ回覧・ポスター掲示）、PTA・子ども会・小学校児童・シニアクラブへ広報配布

2 月 ふれあいまつり実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民間の交流が深まった。シニアクラブの皆さんが昔の遊びを熱心に教えられた。

(2) 苦労した点

- 参加者の確保と活動の担い手が不足していること。
- 2 月開催で寒い時期なので、当日の天候が心配であった。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続、担い手の世代交代、活動資金の確保、他団体との協力。開催日の変更も今後の課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- シニアクラブの会員、小学校 PTA 会父兄に、事業への積極的参画および伝承遊びの指導（竹馬乗り、手作り模型の製作、折り紙遊び等）をお願いする。



地域で支えあう共助の仕組みづくり



【片平学区】

■世帯数：4,251 世帯

■人 □：10,555 人

■面 積：1.424 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 安心・安全で快適なまちづくり：防犯活動強化、防犯情報の提供、防災意識の向上、防犯・防災パトロール、防災訓練の実施
- ・ 地域での支えあう共助の仕組みづくり：ふれあいネットワークの具体的展開、非自治会員への加入奨励、老人クラブ・ボランティア会・子ども会の拡充と地域活動への積極的参加要請、盆踊りや運動会等を通じた住民間のコミュニケーションの深化、敬老会・成人式等への積極的支援、地域福祉活動の推進、救急カプセルの各戸設置の検討推進
- ・ 住環境向上への意識改革：環境清掃活動およびクリーンキャンペーン活動の実施、ステーションへのゴミ出しマナー向上推進、新聞・雑誌等の学区資源リサイクル回収活動のPR
- ・ その他：まちづくり人養成講座の開講、新規コミュニティ作りと既存コミュニティの活性化、緑社会福祉協議会や地域の社会福祉法人・NPO 法人・地域コミュニティ団体等との連携と相互支援強化

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

片平学区の一部の自治会から水平展開し、学区全体へと拡がりつつある。さらに、他学区への展開も進んでいる。

2 きっかけ、背景

平成 22 年に孤独死が連続して 2 件発生した。このことをきっかけとして、地域のコミュニケーションを深めると共に、健常者、障害者の区別のない、地域で支え合う共助の仕組みを作りたいとの思いから活動を始めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、女性団体・女性
会、老人クラブ

(2) 他団体との協力

緑区社会福祉協議会、社会福祉法
人ニコニコハウス

(3) 運営協力

自主的に参画してもらうよう仕
掛けている。

4 実施のスケジュール

H22 年 地域支え合いマップ作りの会設
6 月 立。緑社会福祉協議会との協働

H23 年 活動開始（愛・地球博社会貢献
10 月 活動基金採択）。以後、月 1 回の
定例会議の開催

H24 年 コミュニティカフェ「たまり場
8 月 いっぱく茶屋」の開設
・ 1 回 100 円で参加可
・ 週 2 回実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 地域支え合いマップの作成
- ・ 「たまり場 いっぱく茶屋」の開設
- ・ 住民意識の高まり、住民間の交流の深まりが見られる。
- ・ 担い手の増加。

(2) 苦労した点

- ・ 1 つのプロジェクト（たまり場運営）が始まった段階であり、今後の展開を期待する。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続、活動資金の確保のために賛助会
員を募集する。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 緑区社会福祉協議会とタイアップし、他学区との情報交換会を実施している。



学区住民参加で町づくり



【浦里学区】

■世帯数：2,213 世帯

■人 口：4,769 人

■面 積：0.560 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 防犯パトロールを実施。児童が犯罪に巻き込まれないよう、毎月 1 回、夜間に PTA と地域住民で防犯パトロールをしている。
- ・ 美化運動として、犬の糞対策を実施。
- ・ IT 化による連絡網整備を予定している。

【住民への PR 方法】

掲示板への掲示、PTA・各自治会を通じた周知

【アピールポイント】

学区でパソコンの無料相談を実施して 4 年になる。現在の PC クラブは常に 10 人程度が出席しており、延べ人員は 30 人程度になる。
IT 化で連絡網を整備していきたいと考えている。

2 きっかけ、背景

犯罪防止や児童の下校時における防犯対策が求められるようになった。また、ペットの糞害が課題であった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、スポーツ推進委員、自主防災会 計6人

(2) 他団体との協力

各自治会、区政委員会、学区連絡協議会

(3) 運営協力

若い人たちに参加を呼びかけている（が、難しい）。

4 実施のスケジュール

H20年6月 地域のIT化に向け勉強会を立ち上げ

毎年1回 学区防災訓練実施

毎月1回 夜間学区内防犯パトロール

毎月1回 第2月曜日に交通安全とあいさつ運動

年1回 学区防災訓練（各自治会・防災会参加）

毎月1回 学区自治会ごとに清掃活動

毎月2回 学区スポーツ部会卓球・グラウンドゴルフ

5 成果と課題

(1) 成果・効果

防災について住民の意識が高まってきた。

(2) 苦労した点

若者の担い手がいない。

(3) 今後の課題・展望

何事にもお金がかかるので活動資金の確保が課題である。

高齢者ふれあい給食会



【緑学区】

■世帯数：2,687 世帯

■人 □：6,729 人

■面 積：1.115km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

65 歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、緑コミュニティセンターにてふれあい給食会を開催している。延べ参加者数は約 55 人。

【住民への PR 方法】

給食会参加者による勧誘

【アピールポイント】

当ふれあい給食会は 100%手作り料理である。当番ボランティアが 2 週間前から意見を出し合い検討し、当日のメニューを考えて、季節に即した料理を提供している。

2 きっかけ、背景

高齢化が急速に進み、高齢者間の交流を図るために活動を始めた。以来、20 年以上継続しており、交流促進に役立っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、女性団体・女性会、老人クラブ、ボランティア 計約 18 人

(2) 他団体との協力

緑区民生委員児童委員協議会、女性会、老人クラブ、保健委員、ボランティア

(3) 運営協力

給食ボランティアの育成

4 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者も増えており、交流の輪が広がった。高齢者の生きがいが増えた。

(2) 苦労した点

ボランティアも高齢化しており、若い担い手を募集している。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代が課題である。



平子ふれあい広場餅つき祭り



【平子学区】

■世帯数：3,296 世帯

■人 □：8,230 人

■面 積：1.161 k²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・平成 24 年 1 月、平子小学校グラウンドおよび体育館にて、「ふれあい広場餅つき祭り」を開催した。参加者数は約 850 人。
- ・小学生と父親による「親子で餅つき大会」のほか、体育館ではマジックショー、竹細工コーナー、懇談コーナーなどの体験型の催しを開催した。
- ・参加者が主体となることや、一人暮らし高齢者が積極的に参加できるよう配慮しており、三世代のふれあい・交流の場としている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、一人暮らし高齢者やみまもり隊へ招待状を配布。

【アピールポイント】

毎年参加者が増加している。消防団の協力により、防災訓練も兼ねて実施している。三世代の語らい、ふれあいで友好関係が拡大している。30 代、40 代の方が積極的に活動を推進している。

2 きっかけ、背景

PTA が中心で進められていた「餅つき大会」を、住民の高齢化に対応した三世代交流のふれあい広場に拡大した。防犯・防災の基本は、地域住民の友好、ふれあいであるとの考えから活動を推進し、住民に好評を得ている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、
消防団員、PTA、老人クラブ、スポ
ーツ推進委員 計約 70 人

(2) 他団体との協力

PTA 親父の会、グラウンドゴル
フ同好会、消防団、平子小学校

(3) 運営協力

PTA 親父の会が主催となるよう
に工夫している。

4 実施のスケジュール

H23 年
10 月 基本計画

11 月 各部会で検討

12 月 実行委員会、開催要項決定
PR・回覧

H24 年
1 月 合同実行委員、行事の詳細決定

1 月 開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 助け合う絆が強化できた。
- ・ 担い手の若返りが進んだ。

(2) 苦労した点

- ・ 他団体との協力。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 学校行事と開催時期が重複するため、その調整が必要。



児童の見守りボランティア活動



【鳴海東部学区】

■世帯数：3,629 世帯

■人 口：9,704 人

■面 積：2.858 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 低学年児童の下校時に合わせ、学区内の 20 ヶ所に待ち受け拠点を設け、ボランティアが週 1 回の当番制で声かけ運動をしている。
- ・ 年間の延べ参加者数は約 1,500 人である。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、学区だよりの配布。

【アピールポイント】

ボランティアは長寿者が中心なので、無理のない活動にしている。待ち受け時間は 20 分程度、場所は自宅近くの希望する拠点にしている。都合が悪くなった日は連絡なしで不参加でも可。学校の行事日など変則時間となる日は実施しないこととしている。

2 きっかけ、背景

平成 17 年、全国的に小学校児童の誘拐事件が多発した。当鳴海東部学区には人口が急増する区域があり、事件が発生する心配があったため、児童の見守り活動を始めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、PTA
計約 50 人

(2) 他団体との協力

鳴海東部小学校及び PTA

(3) 運営協力

小学校及び PTA に呼びかけ、ボ
ランティアを補充している。

4 実施のスケジュール

H17 年 組織の立ち上げ、ボランティア
10 月 募集開始



H18 年 活動内容の説明会実施
5 月



9 月 児童見守り活動開始



H22 年 ボランティア再募集のための回
1 月 覧

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・世代を超えた心の交流が始まった。おかげで今まで事件は発生していない。

(2) 苦労した点

- ・参加者の確保。絶えずボランティアを補充していく必要がある。
- ・学期ごとに当番表を作成する関係で、学校と綿密な打ち合わせをしなくてはならない。

(3) 今後の課題・展望

- ・学区民の要望は年々変わってくる。
現在は防犯活動への要望が強く、組
織立ち上げの受け皿が確保できない。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・活動が長続きするために、ボランテ
ィアー一人ひとりの負担を軽くするよ
うにしている。

拠点待ち受け者（ボランティア）へのお願い

- 1 当番日の役割
 - (1) 鳴海東部小学校の発着時刻から勘案して、到着予想時刻の 10 分前に拠点場所に集
合してください。
 - (2) 下校する児童が来たら声をかけてください。
 - (3) 児童は集団で下校することになっているので、集団が過ぎれば終わりです。
(担当者のお住まい近くの集団とそのまま移動してもけっこうです。)
 - (4) 待ち受け拠点以後が心配な地域は、適宜付き添ってください。
 - (5) 待ち受け後の報告は必要ありません。適宜解散です。
- 2 当番表について
 - (1) 祭日にあたる場合は、学校も休みですからありません。
 - (2) 学校行事等で下校時間が変わる日は実施しません。(当番表の下欄に記述してありま
す。尚、学校側の要望でお願いする場合は事前に連絡します。)
 - (3) 当番表は、学期ごとに出します。(当番表は各学期の 1 カ月前ぐらいに自治会を通じ
てお渡しします。)
 - (4) 急な用事等で都合がつかなくなった場合は、当番変更の措置は行いません。(日によ
って待ち受け者がいない拠点が生じますが、やむを得ないと考えます。)
 - (5) 「待ち受け場所」「当番曜日」について、会員同士で交換してもけっこうです。
 - (6) 空いてる「待ち受け場所」または「新たな場所」に変更もできます。
 - (7) 「待ち受け場所」は目安ですので、多少移動した場所でもかまいません。
- 3 その他
 - (1) 当番日には、できるだけ各自治会からお渡しした「ウインドブレーカー」または
「ベスト」と「帽子」を着用してください。
 - (2) 児童との出会いには、行き過ぎた行為(執拗な問いかけ、写真撮影など)は誤解を
招くことがありますので、ご注意ください。
 - (3) お訊ねの向きは、鳴海東部小学校(876-0320) 教頭先生もしくは学区区政
委員会事務局の前田(876-6425)へお願いします。
 - (4) 緊急の連絡は、各自治会ごと一番最初の方に電話を入れます。以下名簿の順
に流してください。(留守の場合は飛ばしてください。)

ふれあい・絆のある街づくり活動



【小坂学区】

■世帯数：2,752 世帯

■人 □：8,037 人

■面 積：1.002 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

小坂小学校において、盆踊り大会（7 月）、敬老会（9 月）、運動会（10 月）、防災訓練（12 月）を実施している。延べ参加者数は約 3,500 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示。

【アピールポイント】

いずれの行事も毎年実施しているが、とりわけ盆踊り大会は例年 2 日間にわたって開催し、学区始まって以来一度も欠けたことはない。今年の盆踊り大会は 10 周年大会であり、2,000 余名の参加があった。

2 きっかけ、背景

小坂学区は、それまで交流の全くなかった別々の学区の一部を合わせて作られた新しい学区であるとともに、その中央部を環状二号線が縦断している新しい街であり、住民間のふれあい・交流促進や災害等への備えの必要などから、これらの活動に取り組んでいる。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、ス
ポーツ推進委員
計約 250 人

(2) 他団体との協力

滝ノ水学童、小坂なるとう学童、
樺の家（身体障害者施設）、小坂小
学校 PTA、学区内全自治会

(3) 運営協力

盆踊り大会及び運動会の実施に
あたっては実行委員会を組織し、広
く意見を取り入れるとともに、後継
者の育成を図っている。

4 実施のスケジュール

毎年 4 月 年間スケジュールの立案・承認
(学区連協)

5～6 月 盆踊り実行委員会の設立、関係者
への協力依頼

7 月 盆踊り大会の実施、運動会実行委
員会の設立

8～9 月 運動会競技資料の配付、参加者募
集

9 月 敬老会の実施

10 月 運動会の実施

12 月 防災訓練の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 年々参加者が増加傾向にあり、今年の盆踊り大会は 2,000 余名の参加が得られた。
- ・ 住民意識の高まり、住民間の交流の深まりに役立っている。

(2) 苦労した点

- ・ 盆踊り指導者の確保、踊る人の確保・増加。
- ・ 他団体との協力。

(3) 今後の課題・展望

- ・ サラリーマン中心の学区なので若い担い手を確保したい。



自主防災訓練



【常安学区】

■世帯数：1,971 世帯

■人 □：5,227 人

■面 積：0.624 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 自主防災会（自治会）の防災活動の強化
- ・ 学区救助地区本部と自主防災会との情報伝達
- ・ 高齢者など要援護者の把握と支援方法の工夫
- ・ 給水、給食、防災倉庫の整備、救急救命などの訓練

【住民へのPR方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

毎年、主要目標を定めて訓練を強化している。また、要援護者（高齢者など）の名簿を、民生委員児童委員の協力を得て作成している。

2 きっかけ、背景

学区自主防災訓練は、学区の成立以来続けられているが、特に平成 23 年 3 月の東日本大震災以降、強化している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員
計約 50 人

(2) 他団体との協力

消防団、自主防災会

(3) 運営協力

民生児童委員協議会、保健委員会

4 実施のスケジュール

毎年 4 月 学区連絡協議会で日程の調整

7 月 学区連絡協議会で計画案の審議

8 月 学区連絡協議会で計画についての情報連絡

9 月初旬 自主防災訓練のちらしを組回覧へ

9 月 最終打ち合わせ



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 訓練に参加することで、住民意識が高まるとともに住民間の交流が深まり、規模も大きくなっていく。
- ・ 参加者の増加。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保、住民の理解を得ることに苦労した。
- ・ 各自主防災会との協力。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続、担い手の世代交代、他団体との協力。
- ・ 消防署など行政機関との緊密な協力が必要。

ふれあい夏まつり盆踊り大会



【大清水学区】

■世帯数：3,792 世帯

■人 □：10,846 人

■面 積：1.202 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 大清水コミュニティセンターおよび平手公園グラウンドにおいて、ふれあい夏祭り盆踊り大会を開催し、約 2,600 人が参加する。
- ・ 模擬店での食中毒の予防対策、周辺の防犯パトロール、交通安全等の指導、誘導に力を入れている。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、掲示板への掲示。

2 きっかけ、背景

学区住民のふれあい、交流と親睦を図り、大災害発生時の防災・減災について踊りを通して共有し、自助・共助の助け合いに関する意識の高揚を図ることを目的としている。

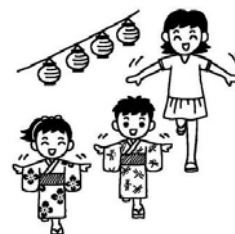
3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 40 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会



4 実施のスケジュール

H24 年 5 月 ふれあい夏祭り、盆踊り大会開催について協議、決定



6 月 盆踊り大会実行委員会の立ち上げ



7 月 大会行事のプログラム作成と学区各自治会の役割分担等の
取り決め



8 月 ふれあい夏祭り、盆踊り大会開催（当日、早朝から地域住民
で会場設営）



開催翌日 後片付け、撤去作業

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者の増加が図られた。
- ・ 住民意識の高まり、住民間の交流の深まりに寄与している。

(2) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と他団体との協力が今後の課題である。
- ・ 後生に日本の歴史、文化を大切に継承すること。

徳重町美推進会



【徳重学区】

■世帯数：2,188 世帯

■人 口：5,972 人

■面 積：1.962 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1

活動・取り組みの内容

「花植えを通してコミュニティづくり」をスローガンに、以下の活動に年間約 500 人が参加している。

- ① 公園で苗を育成し、街路樹や花壇、公園などに植える。
- ② 街路樹柵や花壇を耕作し、苗の植え込みをする。（延べ約 5km）
- ③ 沿道の企業や個人の家に水やりの協力をお願いする。
- ④ 街路樹や歩道の草取り、空き缶やゴミ拾いを随時実施。

【住民への PR 方法】

年間予定表を配布。活動時には電話、電子メール等で通知する。また、各種行事等の機会に勧誘している。

【アピールポイント】

平成 22 年 3 月、「地域の美化活動」を評価され、名古屋都市美化連盟会長（名古屋市長）より表彰を受けた。

こうした活動が住民の絆づくりに貢献している。

2 きっかけ、背景

歩道（街路樹）に花を咲かせてきれいな町にしたいとの思いがあった。また、街路樹柵に雑草が繁り、ゴミも捨てられて汚かったのでマナー向上を図ることが課題だった。そこで、徳重の町を「花街道」で結び、住民の美意識を高めたいとの思いで、数人で活動を開始。（現在では延べ5kmのフラワーロードになった。）その後、学区連絡協議会に参入させてもらい、安定した活動が続けられるようになった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

ボランティア 計約 18 人

(2) 他団体との協力

花水緑の会

(3) 運営協力

組織化して会を運営しているが、
後継者育成は課題である。

4 実施のスケジュール

例年4 ～5月	夏花の種まき、苗づくり、街路 樹柵の草取り、ゴミ拾い等
------------	--------------------------------



6月	街路樹柵や花壇などへ苗を植 え込み
----	----------------------



7～9月	冬花の種まき、苗づくり、草取 り、ゴミ拾い等
------	---------------------------



10～12月	苗の植え込み、草取り、ゴミ拾 い
--------	---------------------



11月	「コミセン祭り」に参画し交流 を促進
-----	-----------------------



1～3月	草取り、ゴミ拾い、清掃など
------	---------------

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・活動への参加者が増え、住民の繋がりが増した。
- ・空き缶やタバコのポイ捨てが減少、犬の飼い主のモラルが改善された。
- ・住民の水やり協力者が増え、意識の向上を感じる。

(2) 苦労した点

- ・苗の育苗管理や水の確保に苦労したが、試行錯誤や歩道の水栓で改善。
- ・担い手は日常の努力で確保した。
- ・活動拠点が遠距離であったが、近くの公園が確保された。

(3) 今後の課題・展望

- ・担い手の高齢化が進んでおり、世代交代が必要。

熊の前発見！ウォーク



【熊の前学区】

■世帯数：3,747 世帯

■人 口：10,916 人

■面 積：1.433 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 亀が洞 1 丁目や西神の倉を中心に、グループでまちを探検するウォークラリーを実施。参加者数約 130 人。
- ・ 関所でクイズに答えるとスタンプがもらえる方式で、約 4km のコースを設定。速さを競うのではなく、まちについて“新しい何か”“へえ〜”を発見することを重視している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧のほか、老人会や地域スポーツ、子ども会等の会合で PR、広報紙「熊の前学区だより」に掲載。

【アピールポイント】

学区内の施設や地域の発見を共有することで、地域に愛着が持てるようになる。また、家族で参加することで世代間交流が図れる。活動を通じて学区を見直そうというきっかけができた。今後も継続することで、学区内、区内、市内へと拡大する可能性がある。

2 きっかけ、背景

地域の伝統や文化を知り、学区の広がりを自分の目で確かめることで、地域に愛着を持ってもらうきっかけにしたい。

また、チーム参加で住民の交流を深め、家族連れによる世代間のふれあいから、心の通う街づくりを進める。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、緑化部、広報計約50人

(2) 他団体との協力

地域の企業等

(3) 運営協力

当初は有志だったが、学区連絡協議会のメンバー全員の協力を得て運営

4 実施のスケジュール

H23年 5月 学区連絡協議会で趣旨提案、承認

12月 実行委員募集、第1回実行委員会開催

H24年 1月 ウォーキングコース提示

2月 ウォーキングコース実地検証し、確認
自治会回覧(チラシ)による参加者募集

3月 運営協力員の役割提案、承認

4月 「熊の前発見ウォーク」実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・まちに対する発見に驚きをもってもらえたこと、学区を知ろうとする意識が芽生えた。
- ・家族参加が多く、親子で相談したり、説明したり会話が弾んだ。

(2) 苦労した点

- ・参加人数の把握が最後までできず、運営計画面で苦労した。
- ・子どもの参加者が多く、道路への飛び出しなど交通整理の面で苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・学区は広く何回でも実施でき継続性がある。今後、学区を越えて区内の探索ウォークに拡大する可能性がある。
- ・交通量が多く、安全の確保が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・自分の住む学区の伝統や歴史、地形の特性、学区の広がり等を知ることにより、地域への愛着と住民のつながりが広がる。

〔至急〕自治会回覧

学区春の新しいイベント

熊の前学区連絡協議会
発見ウォーク実行委員会

「熊の前 発見ウォーク」参加者募集！

わたしたちの「まち」の新しい「何か」を発見
開催は新緑の4月、スタートは熊川公園
家族、友達などのチームで参加しませんか！

●日程：4月15日（日）
●受付：9時30分～
●ウォーク：10時～12時
●集合/解散場所：熊川公園
●コース：熊の前学区
（熊川公園～熊の前～熊川公園）
●参加申し込み要：なし
●参加費：無料
●参加費：あり

※ 保護加入のため人数把握が必要です。
参加希望の方は事前に、チームリーダーと「カタナフ、カタナフ」とチーム人数を書いてください。
3月9日まで自治会回覧に出してください。

自治会名： _____ 組・番名： _____

No.	チーム代表者	人数	No.	チーム代表者	人数
1	組長	5人	9		
2			10		
3			11		
4			12		
5			13		
6			14		
7			15		



敬老会「なごやか高齢者の集い」



【神の倉学区】

■世帯数：2,959 世帯

■人 口：8,247 人

■面 積：1.321 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 神の倉小学校体育館において、学区内の長寿者をお祝いする会を開催。約 200 人が参加。
- ・ 保育園園児による劇遊びや交通指導委員によるマジックショーとリズム体操、中学校合唱部による歌の披露などが行われた。
- ・ 参加者の申込の際に、高齢者の安否確認と兼ねている。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

2 きっかけ、背景

学区内の高齢者人口が増えている中で、学区の歴史を次世代に継承していく必要があるとともに、高齢者との交流を促進するために敬老会を開催している。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、子ども会、老人クラブ、
スポーツ推進委員 計約 50 人

(2) 他団体との協力

神の倉小学校 PTA、学区連絡協
議会の各団体

(3) 運営協力

町内会、自治会に働きかけて敬老
会への参加を呼びかけ、お手伝いな
どをお願いしている。

4 実施のスケジュール

H24 年
6 月 日程を決定



7 月 運営メンバー決定、役割の決定



8 月 申込票、案内等決定、配布回収



9 月 敬老会実施



9 月 会終了後に反省会、今後の方針
を相談

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、
住民間の交流の深まりに役立った。

(2) 苦労した点

参加者の確保、活動の担い手が不足
している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課
題である。

(4) メッセージ・アドバイス

高齢者の参加が 100%になるよう
に運営メンバーに働きかけている。

いつまでもお元気で!!

● 学区敬老会「さわやか高齢者の集い」を開催
なお暑さの残る 9 月 18 日(日)、学区敬老会「さわやか
高齢者の集い」が神の倉小学校講堂で開催され、75 歳以
上の高齢者 180 人の方々が参加されました。
式典後のアトラクションでは、今年は新たに神の倉中
学校合唱部の皆さんが出場され、若々しく澄んだ歌声を会場
いっぱいに響かせました。
続いて神の倉幼稚園児の歌や園児手作りの長寿お祝いメ
ダル贈呈、コールペーパーメントによる合唱が続き、参加
の皆さんは楽しいひと時を過ごされました。



細根公園愛護会活動



【東丘学区】

■世帯数：3,966 世帯

■人 口：10,121 人

■面 積：1.206 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・平成 23 年に東丘、相原、平子学区の有志 26 人で「細根公園愛護会」を設立。即研修会を開催し、学びつつ活動を開始した。3 学区からの助成により独自の腕章を整備した。
- ・毎月 1 回、第二日曜日の午前中、竹林の整備、ヒメボタルの保護と啓蒙活動を行っている。
- ・4 月には市の主催でたけのこ掘りを行ったほか、6 月にはヒメボタル鑑賞会を 2 回開催、8 月には「森づくり」の講座を開講した。
- ・平成 24 年 9 月末までの延べ約 478 人が参加。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

2 きっかけ、背景

この地域にある細根公園は、菅原道真ゆかりの天満宮や、鳴海を訪ねた芭蕉の弟子の句碑があり、歴史的にも興味深い公園となっている。名古屋市緑政土木局の呼びかけで、平成 21 年に 5ha がオアシスの森づくりとして計画され、平成 22 年に市が整備を着手した。

3 実施の体制

運営メンバー

東丘、相原、平子学区の有志 計約 26 人



4 実施のスケジュール

H24 年 12 月 間引きした竹で新年の正月飾りを作る集いを計画

H25 年春 公園の広場まわりに紫陽花を植える予定のため、竹林とそのまわりを整備中

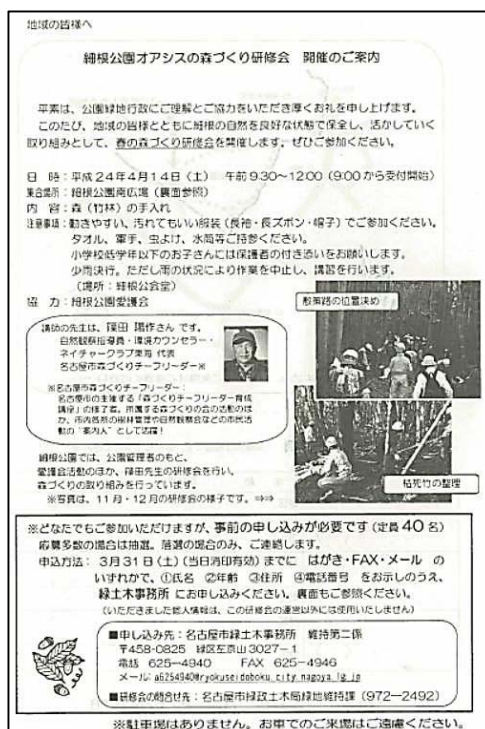
5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加した。

(2) 今後の課題・展望

活動資金の確保が今後の課題である。



大将ヶ根緑地公園の維持・管理



【太子学区】

■世帯数：3,328 世帯

■人 口：7,958 人

■面 積：0.995 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区内で一番大きな公園である大将ヶ根緑地公園において毎月1日と15日に除草・清掃活動を行う。参加者数は毎回40～50人。
- ・清掃活動のほか花の苗を植えるなど、公園の自然環境保全に努めている。
- ・また、毎朝、大将ヶ根緑地公園に30～40人が自発的に集まり、ラジオ体操を行い、交流を深めている。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、地元商店などの店先でのポスター掲示

【アピールポイント】

人が集まり、花が咲き、虫と遊ぶ。公園では、子どもから大人まで歩いたり走ったり、健康的に楽しんでいる。清掃活動を通じ地域を大切に、住民同士が仲良くなり、その絆が防災・減災にも大変役立つと思う。

2 きっかけ、背景

以前は愛知用水が太子学区を二分し、子どもが用水に落ちる事故もあったため、住民の願いとして陳情を続けた結果、用水が暗渠化され、その上に大将ヶ根緑地公園ができた。市民の憩いの場となる公園の維持・管理を通じ、地域の絆を深めることを目的として活動を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
公園隣接の自治会全員
計約 50 人

(2) 他団体との協力

老人クラブ、NPO

(3) 運営協力

公園隣接の自治会員、区政協力委員、
民生委員児童委員など



4 実施のスケジュール

H14 年 8 月末 愛知用水の暗渠化工事が完了名古屋市内へ引き渡し

H14 年 12 月 ~ H15 年 4 月 大將ヶ根緑地実行委員会（住民参加によるワークショップを5回開催）

H16 年 10 月 ~ 公園整備工事

H19 年 4 月 大將ヶ根緑地公園お開園

5 月 ~ 隣接自治会他で役員を決め、公園の除草・清掃活動を開始

H20 年 8 月 11 日 草刈機を購入

毎月 1・15 日 除草・清掃を実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 以前は用水の測道で危険だったが、現在は安全な通学路となっている。
- ・ 公園ができたことにより、学区が一つになり、憩いの場となったほか、活動を通じ住民間の交流と絆が深まった。

(2) 苦労した点

- ・ 活動の担い手や参加者の確保に苦労した。
- ・ 公園ができるまで長期にわたって陳情を続けた。
- ・ 公園をきれいに保つための努力を続けている。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 公園の清掃・維持・管理の活動を若い人に継承すること、他団体との協力体制を築くことが今後の課題。
- ・ 公園を大切にすることにより、住民の地域を大切にすることを高め、互いの絆を深めたい。

絆で災害につよいまちづくり



【鳴子学区】

■世帯数：3,045 世帯

■人 □：6,888 人

■面 積：0.729k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 区政協力委員を対象とした救急救命講習会を、鳴子コミュニティセンターで、緑消防署および鳴子消防団員の指導のもと実施している。
- ・ 自主防災訓練は、鳴子小学校で開催し、災害の怖さを知ってもらい災害への意識を高めるためのビデオ上映を行っているほか、楽しく参加してもらう工夫の一つとして、親子が防火衣を着て行う放水訓練を実施している。延べ参加者数は約 280 人。



【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

地域調査票をもとに、安否確認の仕組みを構築している。個人情報の問題は、本人の同意を得ることで解決した。

2 きっかけ、背景

高齢化が進み、災害時に自力で避難が難しい世帯が増えてきたことや、いつ起こるかわからない東海・東南海地震への対策から、学区連絡協議会として防災への取り組みに力を入れている。また、自然環境への配慮から、学区住民の参加により町の美化運動を毎年11月に実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、自主防災組織
計24人

(2) 運営協力

鳴子団地については、団地の建て替えで人の移動が大きく、運営協力を募ることは現時点では難しい。町内会・自治会については若手リーダーではないが、自主防災活動に主体的に関わってくれる人材がいる。

4 実施のスケジュール

H24年 自主防災訓練参加者募集のチラシ配布
7月



救急救命リーダー講習会
(区政協力委員参加し、講習会で学んだ内容をもとに「自主防災訓練」で学区住民の指導を行う)
8月



9月 自主防災訓練の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

他団体との協力が今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

高齢者の孤立死を少しでも防ぐために、救命訓練（人工呼吸・心臓マッサージ・AED）を区政協力委員のみならず、学区住民にも習得してもらうことが重要です。



スポーツ活動を通じて地域活性化及び住民間世代間の交流促進



【長根台学区】

■世帯数：3,152 世帯

■人 口：7,991 人

■面 積：0.747k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

長根台小学校グラウンドおよび四郎曾池調整地において、学区民の健康づくりと住民間の交流を目的として、グラウンドゴルフ大会、ソフトボール大会、運動会、小学生ドッチボール大会などを開催している。延べ参加者数は約 2,000 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、連絡協議会だよりの配布

【アピールポイント】

連絡協議会や老人クラブ、子ども会等、団体間の連絡網が確立できており、また、各団体役員同士の協力体制が良好で、各イベント等が実施しやすい。

2 きっかけ、背景

新興住宅地と昔からの地域が入り交じった学区であるため、神社・仏閣の伝統を守り、住民間の交流を深めることが目的である。また、学区民の健康づくりと交流を兼ねた行事を通じて、学区の活性化を図る。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、学区ソフトボール連盟

計約 150 人

(2) 他団体との協力

伝治山老人クラブ、学区ソフトボール連盟、各町内会（自治会）の役員会、子ども会

(3) 運営協力

上記各団体との連絡や情報交換を徹底し、協力体制をつくる。

4 実施のスケジュール

4 月 グラウンドゴルフ大会の参加者募集とチーム編成



5 月 学区ソフトボール大会の参加者募集と組み合わせ抽選会を実施



6 月 青少年育成子どもソフトボール大会参加者を募集し、7月からソフトボール同好会の指導を得ながら練習



8 月 学区運動会の参加者募集、また当日の運営協力者を募集



2 月 小学生ドッチボール大会参加者を子ども中心に募集

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 地域の子どもと大人が顔見知りになり、挨拶や声をかけやすくなった。
- ・ 住民間、世代間の交流を通じて、伝統や文化の継承ができている。

(2) 苦労した点

- ・ 学区住民の理解を得ること。
- ・ 担い手の理解度不足。
- ・ 不参加者の参画を誘導すること。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 全てにおいて活動をいかに継続していくかが課題。
- ・ 参加者が固定化しないよう、20～30代の参加率を向上すること。
- ・ 活動資金の確保。



災害時の助け合いの仕組みづくり



【戸笠学区】

■世帯数：3,674 世帯

■人 □：8,778 人

■面 積：1.219k m²

平成 27 年 7 月 1 日現在

1 概要

戸笠学区では、災害時の助け合いの仕組みづくりに取り組んでいる。26 年度に学区連絡協議会と区役所で協定を締結し、避難行動要支援者名簿を受け取った。その名簿を活用して個別支援計画を作成する際に自治会長や組長が中心になって、支援を希望する方々のお宅を 1 軒 1 軒訪問した。

災害時の支援のことはもちろんのこと、日ごろ困っていることなども把握し、向こう三軒両隣の意識が芽生え、地域のつながりが深まった。今後は、個別支援計画を訓練において活用するとともに、支援を希望する方にも訓練にご参加いただけるよう働きかける。

2 きっかけ、背景

- ・ 高齢者が多い学区なので“何かの役に立つのでは”（自治会活動・民生委員活動）と考え、軽い気持ちで取り組もうと思った
 ＜高齢化率 約 30%、区内 2 番目の高さ＞



3 実施の体制

(1) 方針の検討

学区連絡協議会、学区防災委員会で方針を決定

(2) 個別支援計画の作成者

自治会長・組長 約300人



(3) 協力者

民生委員、支援を希望する方の近所の方々

5 成果と課題

(1) 成果

- ・自治会長、組長、民生委員など多くの協力を得ることができた
- ・学区全体の防災意識が高まった
- ・地域のつながりが深まった

(2) 苦労した点

- ・要支援者宅への説明・訪問の難しさ
- ・制度の周知（支援者（組長）の温度差）

(3) 今後の課題

- ・予想以上に要支援者がいる
- ・支援者の主体となる組長自身が高齢化してきている
- ・学区の防災体制の充実（自主防災組織と避難所組織）

(4) メッセージ・アドバイス

- ・役員の取り組み方針の共有化と自治会長への分かりやすい資料作りが必要（総論で分かっても具体的となると難問）
- ・始めたら途中で中止といたかないので使命感に燃えて取り組んでください

4 実施のスケジュール

H26年6月 緑区区政協力委員協議会において区役所から説明を受ける

7～8月 学区内で取組の検討

9月 協定締結

10月 対象者へ案内送付、学区内で回覧

H27年2月 区役所から学区に名簿提供

3月 学区区政委員会で自治会単位の取組の要請

4～6月 各自治会で個別支援計画作成

10月 自主防災訓練の実施

安心安全のふれあい事業



【有松学区】

■世帯数：4,147 世帯

■人 口：11,193 人

■面 積：1.478k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

「安心・安全」をキーワードに、新旧住民の交流と融和を目的として様々な地域活動に取り組んでいる。

- ① **敬老事業**：学区の 75 才以上高齢者は 900 人を超える。学区には坂が多く、参加者に移動の負担をかけてしまうため、敬老会の開催ではなく、町内会役員が高齢者宅を訪問し、お祝いの品を贈呈することで、ふれあいの場とするとともに安否確認を行っている。
- ② **独居高齢者への配食事業**：65 歳以上の希望する独居の高齢者、高齢者世帯へ毎月 2 回、昼食（弁当）の配食サービスを行っている。
- ③ **青色回転灯自主防犯パトロールカーによる巡回**：人口の増加に伴う犯罪増加を防ぐため、平成 18 年に緑区の学区として最初に青パトを導入して以来、毎日巡回パトロールを行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

敬老事業でお祝い品をお届けする際は、高齢者の方と言葉を交わしている。困り事の把握や安否確認にもなっている。

また、独居高齢者への配食事業では、ボランティアが弁当をお届けする際に、ひったくりや振り込め詐欺に関する注意を促すなどしてコミュニケーションを図っている。

2 きっかけ、背景

有松学区は、旧有松の住民と新興住宅地の住民が混在しており、両者の意識を尊重しつつまとめしていくことが、学区の最大の課題である。そのために、「安心・安全」をキーワードに、さまざまな地域活動を行っている。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約200人

4 実施のスケジュール

4月 地蔵池、大池桜まつり 春の交通安全立番

5月 学区一斉町美運動、緑区総合水防訓練

6月 有松しぼり祭り、青色回転灯パトロール講習会

7月 赤十字「献血会」
夏の防犯・非行防止・交通安全学区巡回

9月 敬老お祝いの品のお届け

10月 町内対抗グラウンドゴルフ大会

11月 有松コミセンまつり

12月 歳末防犯・非行防止学区巡回

1月 成人式、ふれあい初詣旅行

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者および活動の担い手が増加した。
- ・住民意識が高まり、住民間の交流が深まりつつある。

(2) 苦労した点

- ・活動の担い手が不足していること、他団体との協力に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続、担い手の世代交代、資金の確保、他団体との協力が課題。



桶狭間古戦場まつり



【桶狭間学区】

■世帯数：4,053 世帯

■人 口：11,084 人

■面 積：2.052 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 3,500 人と伝えられている合戦戦死者の慰霊式典を、桶狭間古戦場公園において実施している。参加者数は約 300 人。
- ・ 合戦戦死者の供養として、子ども会と古戦場保存会、地域ボランティアが主体となって、ペットボトルを利用して作った灯籠 3,500 個を大池周辺に並べ、一斉点灯する。古戦場まつりには述べ約 4,000 人が参加。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

万灯会製作には、子ども会、古戦場保存会、公募ボランティア延べ約 400 人が参加し、3,500 個以上を仕上げています。また、まつり当日は、子ども会父兄、ボランティアほか 300 余名のスタッフが、万灯会の配列、点灯、片付け作業に参加しています。桶狭間学区のみならず、隣接する有松、南陵学区からの参加者も増えています。

2 きっかけ、背景

桶狭間学区は人口が急増しており、新旧住民の交流とコミュニケーションづくりが課題となっている。「桶狭間古戦場」という地域の歴史を活用したイベント「古戦場まつり」によって、地域住民共通のふるさとづくりへの参画を推進することを目的としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会
計約 400 人

(2) 他団体との協力

桶狭間太鼓、有松商工会、新聞販売店、有松桶狭間観光振興協議会

(3) 運営協力

古戦場保存会による地域ボランティアの公募

4 実施のスケジュール

H24 年 2 月 区政協力委員による古戦場まつり準備委員会の設置

3 月 主催・共催団体による古戦場まつり実行委員会の設置

4 月 古戦場まつりのお知らせの各戸配布、ポスターの掲示板への掲示

5 月 万灯会修理、新作新聞チラシの折り込み

5 月 古戦場まつりの開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・地域の行事として定着し、近隣住民の参加者も増えている。
- ・子どもと父兄が手づくりの万灯会を持参し、一家で楽しむ光景が増えてきた。

(2) 苦労した点

- ・ボランティア公募の時期と受付後の連絡（きめ細かいPR）が不十分であった。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動主体は区政協力委員会と古戦場保存会となっているが、担当スタッフが高齢化しており、世代交代を円滑に実現することが課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・地元共通の話題を探し、息の長い活用に向けたアイディアを住民と共同で作り上げることが重要。



南陵学区「夏まつり」



【南陵学区】

■世帯数：1,839 世帯

■人 口：4,324 人

■面 積：0.821 k²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・市営桶狭間荘周辺、8棟公園、9棟公園において、夏祭りを開催した。参加者数は約 1,050 人。
- ・ソーメン流し、紙トンボ製作、竹細工、水風船つり、クロリティー（輪投げ）、防災クイズとエコクイズ、俳句・川柳教室（高齢者向け）と子どもから大人まで楽しめる催し物を用意している。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、選択地域の生徒には南陵小学校を通じてチラシを配布

【アピールポイント】

ソーメン流しの設備は自前で製作した。また、俳句教室では緑区わがまち俳句・川柳コンクールへの応募作品として、20 首以上の作品が完成した。防災クイズは子ども用と大人用の 2 種類の問題を用意した。

2 きっかけ、背景

平成 24 年 1 月より市営桶狭間荘 12 棟、また 4 月より 4 棟の耐震化改修工事が始まって従来の会場が使えず、盆踊りの開催ができなくなった。代替りの催し物として、福祉推進協議会の席上で区政協力委員より「夏まつり」の提案があった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、女性団体・女性会、子ども会、
スポーツ推進委員、交通部、体育部
計約 41 人

(2) 他団体との協力

みどり災害ボラネット

(3) 運営協力

各項目で自発的に名乗り出た方
を責任者として採用し、来年に向け
て補助員の指導にもあたってもらっ
た。

4 実施のスケジュール

H24 年 第 1 回実行委員会を開催し、内容
5 月 1 日 を検討



5 月 25 日 第 2 回実行委員会を開催し、内
容を検討



6 月 29 日 第 3 回実行委員会を開催し、予算
を編成



7 月 21 日 第 4 回実行委員会を開催し、全員
で整備事項の最終確認



8 月 5 日 「夏まつり」の開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加。学区として初めてのソーメン流しであったが、開始 30 分前
に約 100 人の行列ができるなど、多くの参加者があった。

(2) 苦労した点

- 会場が桶狭間荘内であるため、場所によっては騒音に対するクレームがあり、
クロリティーの終了時間を早めた。

(3) 今後の課題・展望

- 平成 25 年度も内容を一部変更して継続する。み
どり災害ボラネットを通じて防災用品の展示も行
いたい。
- 青少年育成の観点から、若い世代に実行委員とし
ての参画を誠心誠意呼びかけるほか、他団体との
協力も進めていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- 今回が初めての企画で当初はかなり心配したが、
会合を重ねるにつれて実行委員全体が一つにまと
まった。やる気を出せば、必ず成功する。



自主防災訓練によるまちづくり



【大高学区】

■世帯数：4,004 世帯

■人 □：10,172 人

■面 積：3.354 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・災害対応に必要な知識や技術の習得による地域防災体制の強化、および防災意識の向上を目的として、大高小学校体育館および校庭にて自主防災訓練を実施している。参加者数は約 560 人。
- ・訓練内容は、消防広報車による被害状況等の情報収集、避難広報活動訓練、自主防災会による避難誘導訓練、情報伝達訓練、学区本部運営訓練、初期消火訓練、応急手当訓練など。
- ・区政協力委員と消防団で訓練計画を立案し、消防団と緑消防署で実施計画を作成する。区政協力委員会で広報し、学区連絡協議会も実施主体として参加する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

住民が防災について意識するようになり、防災訓練への参加者が増えてきている。また、相互連携と近隣の連携ができつつある。

2 きっかけ、背景

平成 14 年に当学区で緑区総合防災訓練が実施されて以降、住民の防災意識が高揚し、単位町内会、学区総合訓練が実施されるようになった。平成 20 年以降は、学区総合と単位町内会での訓練を隔年で実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、消防団員 計約 50 人

(2) 他団体との協力

地域の企業

4 実施のスケジュール

H23 年 10 月 緑消防署に機材借用の申請等



H24 年 4 月 学区の行事計画に計上



5 月 チラシを回覧し、各戸に広報



6 月 防災訓練の実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 前回から大幅に参加者数が増加した。(学区総合訓練の参加者数約 250 人→約 560 人)
- ・ 住民の防災意識が向上した。また、防災訓練を通して住民相互の親睦と近隣のつながりが生まれた。
- ・ 活動の担い手が増加した。

(2) 苦労した点

- ・ 日曜日開催であるため、協力企業からの参加者が少ない。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 企業へ参加者を増やしてくれるよう依頼したい。
- ・ 海拔ゼロメートル地帯があり、避難場所の確保が課題となる。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 防災訓練は継続して実施し、実績を積み上げていくことが重要です。



大高南夏まつり



【大高南学区】

■世帯数：2,748 世帯

■人 口：6,710 人

■面 積：1.448k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 森の里公園において、大高南夏まつりを開催している。参加者数は約 5,000 人。
- ・ 祭りの 2 ヶ月前から企画部会を設置し、週 1 回のペースでまつりの内容を話し合う。
- ・ 企画委員会で練られた内容を実行委員会に提案し、さらに内容を深める。
- ・ 「みんなで話し合い、みんなで決めたことはみんなで実践する。」をスローガンに企画・運営を行う。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、掲示板への掲示

【アピールポイント】

まつりに関わる人が延べ 600 人おり、この 600 人のエネルギーが日常の良好なコミュニティの源泉になっている。

2 きっかけ、背景

まつりはコミュニティの原点と位置づけ、地域住民の交流と親睦を通して、人と人とのつながり、結びつきを深めることによって、他の地域課題の解決につなげることを目的としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 など
計延べ約 600 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会の加盟団体以外に生活協同組合、保育園など

4 実施のスケジュール

H24 年
6 月 実行委員会および企画部会の立ち上げ



6～7 月 週 1 回のペースで企画部会を開催



7 月 実行委員会を 2 回、企画部会を 4 回開催



8 月 夏まつりの実施



5 成果と課題

成果・効果

- ・住民間の交流が深まり、人と人とのつながりの重要性について住民の意識が高まった。
- ・活動の担い手が増加した。

ふれあいウォーキング



【大高北学区】

■世帯数：2,656 世帯

■人 口：6,819 人

■面 積：2.671 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・大高緑地公園を起点に、大高、鳴海、有松、桶狭間の各史跡等をめぐる「ふれあいウォーキング」を開催した。参加者数は約 298 人。
- ・地域史跡の散策（桶狭間古戦場等）、地域の祭り見学（有松絞り祭り、鳴海宿場祭り）、緑区学区対抗駅伝の応援と駅伝コースのウォーキング、小運動会の実施など、毎回コースの変更や内容の工夫を行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

活動を通じて、地域住民の交流が図られた。また、安心・安全・快適なまちづくりの推進に寄与しているほか、運営メンバーの積極的応援が得られた。

2 きっかけ、背景

地域住民の交流が希薄なため、ウォーキングを通じて交流促進を図るとともに、子どもと大人がふれあう機会を作り、みんながあいさつできる町づくりを目的として実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、PTA、女性団体・女性会、スポーツ推進委員 計約 13 人

(2) 他団体との協力

PTA、民生委員児童委員協議会、保健委員、女性会、ボランティア

(3) 運営協力

緑区ルネッサンスフォーラム会員および大高歴史の会会員の協力を得た。

4 実施のスケジュール

H23 年 6 月 25 日 ふれあいウォーキングと親子運動会の実施

H24 年 2 月 19 日 ふれあいウォーキングと駅伝応援の実施

4 月 21 日 打ち合わせ（行先の選定、実施日の決定、チラシの作成）

4 月 29 日 チラシの回覧、参加者募集の申込受付

5 月 26 日 参加者数の把握、役割分担、お茶等の購入

6 月 3 日 ふれあいウォーキングの実施（有松絞祭見学）

6 月 4 日 学区委員長へ実施報告

5 成果と課題

(1) 成果・効果

大高緑地での小運動会は、子どもも大人も共に楽しめるよいふれあいの場となり、参加者も最も多かった。

(2) 苦労した点

平成 18 年より、史跡散策を主に実施してきたがマンネリ化の傾向にあり参加者数が減少していた。今回、小運動会を取り入れたことにより減少に歯止めがかかった。

(3) 今後の課題・展望

今後は、大人と子どものグラウンドゴルフ等を検討するなど、スポーツ関係の行事も考えていきたい。



土曜日の 1 日を親子・学区の人とゲームをして楽しみませんか？

ふれあいウォーキング開催のお知らせ！

（第 1 回は大高緑地公園にて子供さん中心のイベントを開催します）

- ◆ 平成 23 年 6 月 25 日（土）
- ◆ 午前 9 時 45 分 緑地公園（遊楽広場）集合。
集合場所から若草山まで ウォーキング
その後大高緑地の遊楽広場でゲーム等を行います。
- ◆ 雨天の場合はコミセンにて親子でゲーム。
町内の皆さんとの触れ合いの 1 日を楽しみたい。
（雨天の場合は集合→コミセンに 10 時 00 分）
- ◆ 登壇はおにぎり・お茶を学区で用意致します。登壇後は緑地にて自由解散。
その後は各家庭にて責任を持ってください。

（お子様の参加人数は）

コース 大高緑地公園から若草山までウォーキング。
その後遊楽広場でゲームを実施します。
参加費 無料（障害者施設料金は学区で負担します）
申し込み 町内に記入、又は町内会長に申し出て下さい。
主催 大高学区連絡協議会
目的 「ふれあい・明るい町づくり」
これを期に町内の親交を深めるためにぜひご参加ください。

ゲームの内容

- パン食い競争
- ビンゴゲーム
- スプーンレース
- ボール遊び（親子）

黒石学区納涼夏祭り



【黒石学区】

■世帯数：1,939 世帯

■人 □：4,951 人

■面 積：0.586 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・西友鳴海店第一駐車場において、地域の絆を結ぶ場として納涼夏祭りを開催している。2日間の延べ参加者数は約 4,000 人。
- ・盆踊り、和太鼓演奏のほか、地元の子ども会、学童保育クラブ、スポーツクラブ等の各種団体が、焼きそばや綿菓子といった飲食物やゲーム遊び、バザーなどのブースを出展する。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、掲示板への掲示、「黒石だより」での PR

【アピールポイント】

盆踊り、和太鼓、夜店などの行事本体だけでなく、準備、設営、撤去作業などを全て実行委員会である連絡協議会を中心に、いわば住民手づくりで行っている。開催場所がわかりやすく、来やすいため、学区住民はもとより、近隣学区の住民も来場し、参加者数が多い。20 年以上にわたって継続的に開催されているので、住民の間に定着し、学区の恒例行事となっている。

2 きっかけ、背景

20 年以上前から、学区住民間や世代間のふれあい、交流を促進するため、毎年夏に開催している。当日の運営だけでなく、準備や後片付けなど、全て住民の手づくりによる学区の恒例行事となっており、住民の参加が多く、住民の連帯感、「絆」を深めることに大きく貢献している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

学区連絡協議会会長、副会長、会計、区政協力委員（町内会長）、民生児童委員会会長、保健委員会会長など、全ての学区連絡協議会構成員計 35 人

(2) 他団体との協力

老人会、子ども会、PTA、学童保育など、ほとんどの学区連絡協議会編成団体、女性会、走友会、ソフトボール連盟等のスポーツクラブ、和太鼓グループなど

(3) 運営協力

準備作業は、できるだけ若い人に協力してもらうよう町内会長にお願いしている。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者の増加、住民意識の高まり、住民間の交流の深まり。

(2) 苦労した点

- ・会場使用についての交渉。

(3) 後の課題・展望

- ・活動の継続、担い手の世代交代、開催場所の確保が課題。
- ・盆踊りの参加者を増やすとともに、おみこしなど、出し物を多様化していきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・「核になる人」を中心に、できるだけ多くの住民による企画、参加が望ましい。
- ・実施後、反省会を行い、問題点を検討して来年に備える。
- ・神社、寺などの古くからの伝統行事があれば、それらを含めて企画することで、一層意義深い行事になると考える。

4 実施のスケジュール

H24 年 3 月	開催場所、日時について会場となる西友鳴海店と交渉
4 月	学区連絡協議会で、夏祭りを含む年間事業計画及び予算の承認
5 月	学区連絡協議会で、企画案の承認、それに基づき各団体に作業協力者の選出を要請
6、7 月	学区連絡協議会（実行委員会）で準備作業、役割分担、行事内容などの決定
7 月上旬	準備作業
7 月 28 日 ～29 日	夏祭り実施
7 月 30 日	会場及び隣接公園の清掃



防災訓練の実施



【桃山学区】

■世帯数：3,724 世帯

■人 □：9,719 人

■面 積：0.919k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・桃山小学校において、防災訓練を実施、参加者は約 340 人。東日本大震災の被災状況を目の当たりにして、これまでの訓練内容を改め、より実務的に行動ができるように取り組んでいる。
- ・町内会ごとの防災会を単位として参加し、当日は、訓練内容ごとに、炊き出しなど5グループに分けて実施している。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧

2 きっかけ、背景

東日本大震災の被災地の状況を見て、自分たちの地域が被災した場合の恐怖を実感し、従来からの防災訓練とは内容を新たにし、地域の実状に即した実践的な防災訓練に取り組んだ。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、保健委員 計約 10 人

(2) 運営協力

町内会の防災会を編成し、防災会単位で参加

4 実施のスケジュール

H24 年 3 月初旬 区役所総務課と防災訓練の日時を打ち合わせ



3 月中旬 学区連絡協議会の今年度の取り組み方を役員で打ち合わせ



4 月末 スケジュール、役割分担について学区連絡協議会役員と消防団で打ち合せ



5 月初旬 防災訓練実施計画（案）を学区連絡協議会役員と消防団で打ち合せ



5 月下旬 防災訓練の実施内容、備品の確認を学区連絡協議会役員で実施



6 月 4 日 防災訓練当日、炊き出しなどを 5 班の訓練グループに分かれて実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・家庭でできる防災対策の習得や、非常用に持ち出す備品の確保について周知ができ、防災に対する住民の意識が高まった。

(2) 苦労した点

- ・災害に関する広報を各町内会（防災会）に回覧し、住民の理解を得ることに努めている。

(3) 今後の課題・展望

- ・防災会を通じて訓練の積み重ねを行うことが重要。
- ・災害時の非常持ち出し用、また避難所設置に必要な備品調達資金の確保が必要。